



会社概要

株式会社 ADK マーケティング・ソリューションズ

<https://www.adkms.jp/>

業種：マーケティング/広告会社

従業員数：

1,270 名 (2019 年 1 月現在) 名

資本金：1 億円 (2019 年 1 月現在)

所在地：〒 105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目23番1号 虎ノ門ヒルズ森タワー

事業内容：

株式会社 ADK ホールディングスを持株会社とした ADK グループの事業会社として、2019 年 1 月に設立。共感性の高いブランド体験をさまざまな接点で創造している。提携会社とも連携しながらデジタル領域のソリューション力を高め、クライアントと併走しながら迅速に PDCA を実践。クライアントのあらゆる課題に向き合い、マーケティング領域における総合的なソリューションを提供している。

導入製品

導入時期：2019 年 5 月

導入製品：

Tableau Creator ライセンス数：1

Tableau Explorer ライセンス数：5

Tableau Viewer ライセンス数：50

主な利用環境：クライアントへのサービス及び社内向けマーケティングダッシュボード

導入に要した期間：約 1 年

Tableauを活用したダッシュボード「ADK RADs」を提供 リアルタイムなデータ分析でクライアントの意思決定を支援

Before 導入前の課題

以前は Excel や Access を利用してクライアントに提出するレポートを作成しており、その工数が大きな負担になっていた。また分析に関するナレッジに偏りが生じやすく、一部の作業をアウトソースしていたためコストがかかっていたことも問題だった。

After 導入後の効果

Tableau を活用した ADK RADs を提供することで、レポート作成の工数を大幅に削減できた。また施策の効果をほぼリアルタイムでトラッキングできるため、次のアクションの意思決定も迅速に下せるようになった。

導入の背景

消費者を動かすプロフェッショナルとして、顧客のマーケティング領域における総合的な課題解決を支援している ADK マーケティング・ソリューションズが、2019 年 12 月に「ADK RADs (Reporting & Analytics & Decision system)」β版の提供を開始しました。これはクライアントの意思決定を支援することを目的としたダッシュボードサービスであり、デジタル広告運用に関するデータを統合・可視化・分析を行うことが可能です。リアルタイムなデータ提供へのニーズや、多面的なデータ分析の要請に応えることで、PDCA の精度・スピードを上げることを目指しています。

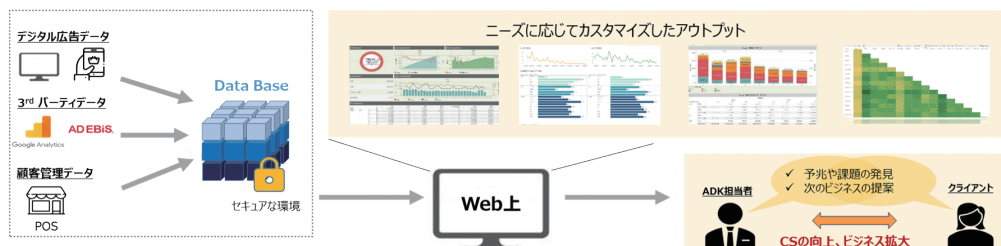
「以前は Excel や Access を利用してデータ分析を行っていましたが、すでに限界を感じていました」と語るのは、事業計画本部 デジタルビジネスプロデュースセンターでマネージャーを務める濱野 充宏氏。入力などの工数が掛かり過ぎていた上、分析に関するナレッジに偏りが生じていたことも大きな課題だったと言います。「また一部の作業をアウトソースしていたこともあり、コストが掛かっていたことも問題になっていました」。

このような問題を解決するため、BI ツールの導入を検討。最終的に BI ツールとして Tableau を選択し、これによって ADK RADs を構築するに至ったのです。

Tableau 導入・運用環境

ADK RADs が提供する具体的なサービス内容は、各メディアの広告配信データ等をデイリーで取得してデータベースに蓄積・統合し、多様な切り口で広告効果を分析するというものです。俯瞰的な現状把握から個々のメディア別、キャンペーン別のパフォーマンスまでをドリルダウンで分析することで、成功要因と課題を可視化できます。レポートは Web で閲覧でき、サードパーティのデータや CRM データなど、多様なデータと組み合わせることも可能。個々のクライアントのニーズに応じた、カスタマイズレポートの提供にも対応しています。

データソースからのデータ取得は、大きく 2 種類の方法を採用しています。API が用意されているデジタル広告メディアに関しては、提供されている API で接続してデータを取得。それ以外のデータソース



お客様プロフィール

お名前：濱野 充宏 様

役職：マネージャー

部門名：
事業計画本部

主な担当業務：
デジタルビジネス強化のための企画・プロジェクトマネジメント

お名前：宮 亮介 様

部門名：
デジタルプロデュースセンター

主な担当業務：
BI エンジニア及びそれらの開発環境に関するエンジニアへのディレクション

Tableauについての質問

Q1. Tableau で感動したことは？

「Tableau を使い始めて2年が経過していますが、他のBIツールに比べて非常に直感的だと感じています。ダッシュボードはドラッグ&ドロップで簡単に作ることができ、ドリルダウン機能も優れています。指標をグルーピングすることで、より深い分析を行うことも可能です」

Q2. Tableau 導入後の変化は？

「以前は顧客1社あたり最大で10時間程かかっていたExcelでのレポート作成がtableauによって大幅に削減できました。また広告施策などの結果をほぼリアルタイムでトラッキングできるため、次のアクションも行きやすくなっています」

Q3. Tableau でしたいことは？

「CRMデータやオフラインデータを使った、オンオフ統合のマーケティングダッシュボードを構築したいと考えています」

に関しては、独自プログラムによるスクレイピングやRPAを駆使することで、データを取得しています。「ADK RADsを構築するきっかけとなったのは、一部のお客様から『レポートとして見るだけではなくアクションにつながるデータが欲しい』というご要望をいただいたことです」と言うのは、事業計画本部デジタルビジネスプロデュースセンターの宮 亮介氏。そこで2019年9月までにTableauでこの仕組みを作り、10月に先行リリースして顧客の反応を確認した上で、12月のβ版リリースに至ったのだと説明します。

「現在ではデジタルメディア部署全体に展開し、社内ユーザーとお客様とで同じ数字を見て意思決定していただけるようにしています。これによって広告施策などの結果をほぼリアルタイムでトラッキングできるようになり、どのようなアクションを起こせば目標値に達することができるか、といったシミュレーションも可能になりました」。

Tableau 選定の理由

それではなぜADK RADsの分析ツールとしてTableauが選択されたのでしょうか。宮氏は大きく3つの理由を挙げています。

第1は、Tableau内部でのデータの持ち方が、多様な分析に対応しやすいことです。事前に集計を行うことなくローデータのままデータを保持できるため、改めてデータを再取得することなく、ドリルダウンなどを自由に行えるのです。

第2は、ドリルダウンの操作が行いやすいことです。「Tableauは他のBIツールに比べ、直感的な操作でドリルダウンを行えます」と宮氏は指摘します。

そして第3が、グラフ作成が容易であり、その内容を簡単な操作で多面的に切り取ることが可能なことです。

「Tableauでは3軸、4軸での分析や可視化が可能です。例えばバブルチャートなどで可視化を行ない、その内容を複数の軸でフィルタリングしながら、効果の高かったキーワードや表現を抽出する、といったことが簡単にできます」（宮氏）。

さらに濱野氏は、ライセンス体系も採用を後押ししたと付け加えます。

「他のBIツールでは取り扱うデータ量に応じた従量課金を採用するケースが多いのですが、Tableauはデータ量が増えてもライセンス料が変化しません。当社が扱うデータ量は非常に多く、ログデータではレコード数が億単位になることも珍しくないため、長期的に投資対効果を最大化するにはTableauが最適であると判断しました」（濱野氏）。

Tableau 導入効果

Tableauを活用したADK RADsの提供は、大きく2つの効果をもたらしています。

レポート作成の工数削減

以前は顧客向けレポートとして、日次、週次、月次の3種類のをExcelで作成していました。そのための工数は、週次、月次のレポートでは1件あたり1~2時間、日次のレポートでも30分は必要でした。これらの合計時間は顧客1社あたり最大で10時間/月に上り、これをtableauによって大幅に削減されました。

意思決定の迅速化

広告施策などの結果をほぼリアルタイムでトラッキングでき、次のアクションの検討につなげやすくなった結果、顧客の意思決定スピードが大幅に向上しました。またADKマーケティング・ソリューションズ社内全体でのメディア運用状況や需要の変動、ジャンルごとのアカウント数などの可視化も容易になったため、どのような広告/マーケティングパッケージを整備する必要があるのか、アップセルやクロスセルの提案で顧客の満足度を高められないか、といった判断も下しやすくなりました。

今後の展開について

ADK RADsのユーザーは、現在ではデジタル広告媒体を扱う部署とそのクライアントがメインとなっていますが、今後は対象ユーザーをさらに拡大していく計画です。

「当社は総合広告会社なので、取り扱っているメディアはデジタルだけではなく、テレビや新聞、雑誌といった従来型のマスメディアも取り扱っており、CRMに関するデータも保有しています。これらのデータも含めて分析可能にすることで、より大きな価値が出せると考えています」（濱野氏）。

またAIなどを活用したサジェスチョン機能も実現していきたいと濱野氏は語ります。

「お客様にとって重要なのはレポートそのものではなく、データにもとづいて適切な意思決定を行うことです。AIによるサジェスチョンは、これを加速するための重要な道具になるはずで、これからもTableauを極限まで活用することで、お客様の意思決定をご支援したいと考えています」。

無料トライアル版をダウンロードして、ぜひ Tableau をお試しください。

<http://www.tableau.com/ja-jp/trial>

Tableau Software (Email: japan@tableau.com)